

第17回共催講演会

公益財団法人医用原子力技術研究振興財団
公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団

心と体にやさしい 重粒子線がん治療

講演会ガイド



日時 令和3年12月4日(土)

(受付 13:00~)

場所 JR九州ホール

福岡県福岡市博多区博多駅中央街1番1号



主催 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団/公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団

後援 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構/公益社団法人日本放射線腫瘍学会/一般社団法人日本量子医科学会/福岡県/佐賀県/
公益社団法人福岡県医師会/佐賀県医師会/一般社団法人生命保険協会 福岡協会/一般財団法人量子医療推進機構(順不同・敬称略)

開催趣意書

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団は、加速器等から発生する粒子線等により先端のがん治療をはじめとする各種放射線による疾病の治療ならびに診断等、放射線利用技術の研究を推進するとともに、その普及を図ることにより、科学技術の振興を図り、もって人類の福祉向上に寄与することを目的として、各種事業を展開いたしております。

放射線を利用した医療技術は、今や国民生活にとって欠かせない重要な役割を果たしております。とりわけがんに対する放射線治療は、機能と形態を温存し、高いQOL(生活の質)を維持し治療できる長所をもっており、他の治療法と比較して、患者に優しく、年齢に関係なく治癒を目指せる優れた治療法といえます。ところが、わが国では、放射線医療に関する正確な情報が一般の方々へ十分伝わっていないという側面があり、残念ながらその真価が正當に評価されていないことが多いのが実情であります。

このため、当財団では、「人にやさしいがんの放射線治療」をテーマとして、放射線利用技術が診断・治療等のさまざまな医療の現場で活用され、役立っていることを、広くわかりやすく一般の方々へ紹介し、国民生活に身近で、貢献度の高いものであることを理解いただくことを内容とする「公開講演会」を毎年各地で開催しております。

今回は、令和3年12月4日(土)に福岡市において佐賀国際重粒子線がん治療財団と共同で開催いたします。

公開講演会は2部構成で、第1部では「人はがんとどう向き合うか？」をテーマに、医師であり自身が患者も経験した垣添忠生から、患者や家族、周りの方々が抱えている悩みや社会全体が直面している課題、およびその対策、取り組みなどをお話いたします。

また、第2部は「重粒子線がん治療について」をテーマとして、九州国際重粒子線がん治療センターの塩山善之センター長より九州唯一の重粒子線治療の施設である九州国際重粒子線がん治療センターの取り組みについてご紹介させていただきます。加えて、患者の視点から膵臓がんを治療された患者さんより、重粒子線治療の体験についてお話させていただきます。

この公開講演会を通じて、重粒子線がん治療および同治療に積極的に取り組んでいる九州国際重粒子線がん治療センターについて、福岡県や佐賀県および周辺地域のみならず全国のより多くの皆さまが関心をもち、理解を深めていただくことを目指します。さらに、患者自らががんをよく知り、恐れず積極的に向き合う環境づくりを進め、広く国民全体の福祉の向上につながることを期待しております。

共同主催 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団
公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団

「心と体にやさしい重粒子線がん治療」

日時 令和3年12月4日(土) (受付13:00～)

場所 JR九州ホール 福岡県福岡市博多区博多駅中央街1番1号

13:30～

開会
挨拶

公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団
理事長 **中川原 章**

公益財団法人医用原子力技術研究振興財団
副理事長 **辻井 博彦**

13:40～

第1部

◇特別講演「人はがんとどう向き合うか？」

公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 理事長 **垣添 忠生**
公益財団法人日本対がん協会 会長

休憩

15:25～

第2部

◇講演「重粒子線がん治療について」

九州国際重粒子線がん治療センター
センター長 **塩山 善之**

◇座談会「重粒子線がん治療の体験談」

九州国際重粒子線がん治療センター
診療副部長 **寺嶋 広太郎** (膵臓がん担当医)
治療経験者 **岩尾 雅子氏**

進行 水田 恵弓

開 会 挨拶

なかがわら あきら
中川原 章

公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 理事長



略 歴

- | | |
|-------|---|
| 1972年 | 九州大学医学部卒業、第二外科入局 |
| 1980年 | 米国ロックフェラー大学留学 |
| 1981年 | 九州大学医学部小児外科 (助手 → 講師 → 助教授) |
| 1990年 | 米国ワシントン大学小児血液腫瘍科 |
| 1993年 | 米国ペンシルバニア大学・フィラデルフィア小児病院 |
| 1995年 | 千葉県がんセンター研究所 (部長 → 所長) |
| 2005年 | 千葉大学医学薬学府連携大学院・教授 |
| 2009年 | 千葉県がんセンター長 |
| 2013年 | 千葉大学・客員教授 (2014年3月任期満了) |
| 2014年 | 佐賀県医療センター好生館・理事長 (2018年3月任期満了)
九州大学診療教授
佐賀県医療顧問 |
| 2015年 | 佐賀国際重粒子線がん治療財団・理事長 (現在に至る) |
| 2016年 | 長崎大学客員教授 (現在に至る) |
| 2018年 | 佐賀大学客員教授 (現在に至る) |
| 2021年 | 日本量子医科学会・副理事長 |

主な受賞歴

- | | |
|--------|--|
| 2000年 | Audrey Evans 賞 (第9回 国際神経芽腫学会・最高賞) |
| 2006年 | 千葉県知事表彰 |
| 2008年度 | 高松宮妃癌研究基金・学術賞 (基礎研究部門) |
| 2011年度 | JNTO National Conference Prize |
| 2013年度 | 日本対がん協会賞 (個人の部) |
| 2018年 | 比較腫瘍学常陸宮賞 |
| 2018年 | Lifetime Achievement Award (Advances in Neuroblastoma Research Association; ANRA, 国際神経芽腫学会; 生涯特別功労賞) |
| 2021年 | 佐賀新聞文化賞 |

開 会 挨拶

つじい ひろひこ
辻井 博彦

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 副理事長
量子科学技術研究開発機構 QST病院 副病院長
国際重粒子線治療研究センター センター長



略 歴

- 1968年 北海道大学医学部卒業
- 1969年 国立札幌病院放射線科
- 1972年 ニューヨーク市St Vincent Hospital レジデント
- 1974年 北海道大学医学部放射線科
在職中に米国とスイスで各1年間パイ中間子治療プロジェクトに参加
- 1989年 筑波大学臨床医学系教授・陽子線医学利用研究センター長
- 1994年 (独)放射線医学総合研究所・重粒子治療センター病院長
- 2008年 同理事
- 2012年 九州国際重粒子線がん治療センター・特別顧問
- 2014年 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 代表理事・副理事長
- 2016年 神奈川県立がんセンター・重粒子線治療センター長
- 2018年 量研機構QST病院・国際治療研究センター長 兼 副病院長

第1部 特別講演「人はがんとどう向き合うか？」

かきぞえ ただお
垣添 忠生

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 理事長
公益財団法人 日本対がん協会 会長



生年月日 1941年4月10日

出生地 大阪

略 歴

1967年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972年東京大学医学部泌尿器科文部教官助手。

この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜、国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務し、1987年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992年1月に病院長、同年7月に中央病院長、2002年4月総長に就任。2007年4月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。

専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、並びに瑞宝重光章などを受賞。

主な著書

『発がんからみた膀胱がんの臨床』（メディカル・ビュー社）

『がんと人間』（共著 岩波新書）

『患者さんと家族のためのがんの最新医療』（岩波書店）

『前立腺がんで死なないために』（中央公論社）

『妻を看取る日』（新潮社）

『悲しみの中にいるあなたへの処方箋』（新潮社）

『がんと人生』（中央公論新社）

『巡礼日記 - 亡き妻と歩いた600キロ』（中央公論新社）

『「カキゾエ黄門」漫遊記』（朝日新聞出版） など

第2部 講演「重粒子線がん治療について」

しおやま よしゆき
塩山 善之

公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団
九州国際重粒子線がん治療センター センター長



略歴

- 1990年 九州大学医学部卒業
- 1990年 九州大学医学部研修医
- 1991年 山口赤十字病院研修医
- 1992年 唐津赤十字病院医師 放射線科 医員
- 1997年 九州大学医学部附属病院 放射線科 医員
- 2000年 筑波大学臨床医学系 陽子線医学利用研究センター 助手
- 2002年 九州大学医学部附属病院 放射線科 助手
- 2006年 テキサス大学MDアンダーソンがんセンター 客員研究員
- 2006年 九州大学大学院医学研究院・臨床放射線科学分野 助教
- 2010年 九州大学大学院医学研究院・臨床放射線科学分野 講師
- 2010年 九州大学大学院医学研究院・重粒子がん治療学講座 教授
- 2013年 九州国際重粒子線がん治療センター 副センター長
- 2016年 九州国際重粒子線がん治療センター センター長
- 2019年 九州大学大学院医学研究院 放射線医療 情報・ネットワーク講座 教授
- 2020年 九州国際重粒子線がん治療センター センター長

専門領域

がん放射線治療、高精度放射線治療、粒子線治療

資格

放射線科専門医、放射線治療専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医・暫定教育医 等

所属学会

日本放射線腫瘍学会（監事）、日本医学放射線学会（代議員）、
日本癌治療学会（代議員）、日本肺癌学会（理事）、日本頭頸部腫瘍学会（代議員）、
高精度放射線外部照射部会（幹事）、日本臨床腫瘍学会 等

その他

九州大学医学部 臨床教授、久留米大学 非常勤講師、
医薬品医療機器総合機構（PMDA）専門委員、量子科学技術研究開発QST病院客員研究員、
重粒子線治療多施設共同臨床研究組織（J-CROS）運営委員会委員・監査委員会委員長、
九州肺癌機構 副代表世話人 等

座談会「重粒子線がん治療の体験談」

寺嶋 広太郎

九州国際重粒子線がん治療センター
診療副部長(膵臓がん担当医)

- 大 学 九州大学(2003年卒)、博士(医学)
- 出身医局 九州大学 放射線科
- 専門分野 放射線医学/放射線治療
- 主な経歴 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院
九州大学 先進医療イノベーションセンター 助教
九州大学病院別府病院 放射線科 助教
九州国際重粒子線がん治療センター
九州中央病院 放射線科
- 専門医等 放射線治療専門医(日本医学放射線学会/日本放射線腫瘍学会)
がん治療認定医(がん治療認定医機構)、第1種放射線取扱主任、
日本ハイパーサーミア学会認定医
- 所属学会 日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、日本癌治療学会、
日本肺癌学会
- そ の 他 量子科学技術研究開発QST病院客員研究員



治療経験者

岩尾 雅子氏

熊本県熊本市在住

6年前に医師から膵臓がん(ステージ4A)と伝えられサガハイマットで重粒子線がん治療を行った。
現在は3カ月に1度のCT検査と年に1度のPET-CT及びエコー検査を行っている。

進行 水田 恵弓





A series of horizontal dotted lines for writing, spanning most of the page.





A series of horizontal dotted lines for writing, spanning the width of the page.





公益財団法人医用原子力技術研究振興財団
公益財団法人佐賀国際重粒子線がん治療財団